



キリングroup 2026年12月期 第1四半期決算

2026年5月14日

- キリンホールディングスの高岡です。よろしくお願いいたします。
- それでは、第1四半期決算についてご説明いたします。まず、2ページをご覧ください。

(億円)	25年1Q 実績	26年1Q 実績	増減	%
売上収益	5,459	5,730	272	5.0%
事業利益*	363	500	137	37.7%
税引前四半期利益	383	503	121	31.6%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	243	271	27	11.3%
期中平均株式数 (百万株)	809	809	0	0.0%
EPS (円)	30	33	3	11.3%

- 親会社所有者利益は、法人所得税費用増加等の減益要因があったものの、事業利益の増加によって増益
- EPSは、親会社所有者利益の増加に伴って向上し、年初計画に対して順調に進捗
- 事業利益は、各事業の順調な進捗に加えて、協和キリンにおける売上総利益の増加も大きく貢献し増益

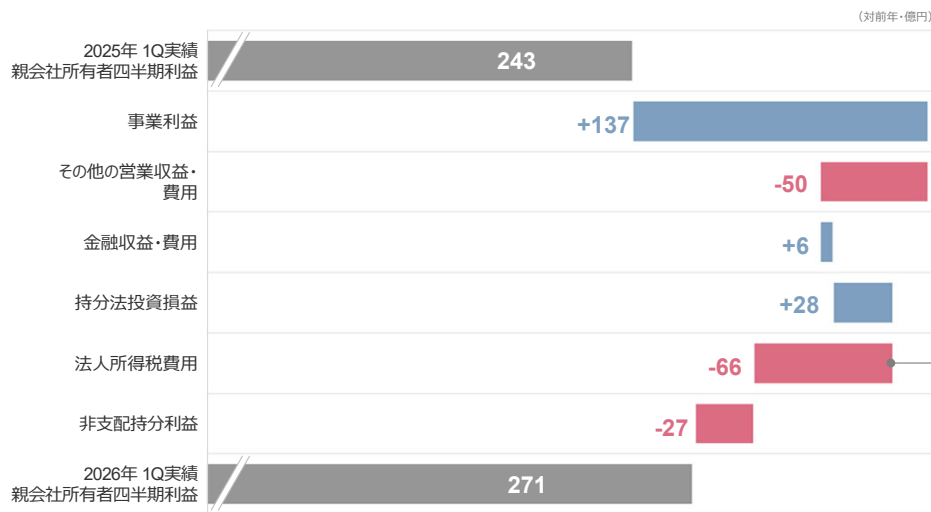
* 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出

© Kirin Holdings Company, Limited

2

- 第1四半期決算の連結売上収益は、対前年プラス5%、連結事業利益については、対前年プラス約38%と増収増益です。
- 事業利益は、各事業が順調であることに加えて、協和キリンにおける技術収入の増加もあり、増益で推移しております。
- また、主に、事業利益の増加によって、親会社所有者利益やEPSも前年を上回っています。
- なお、中東情勢による影響をはじめ、先を見通せない不確定要素があることから、現時点では、通期業績予想は修正いたしません。
- 今後、必要に応じて業績の修正を行う予定です。

2026年度 1Q実績：親会社の所有者に帰属する四半期利益増減



三
補足

法人所得税費用

《税率》

FY25 : 28.4% ⇒ FY26 : 35.4%

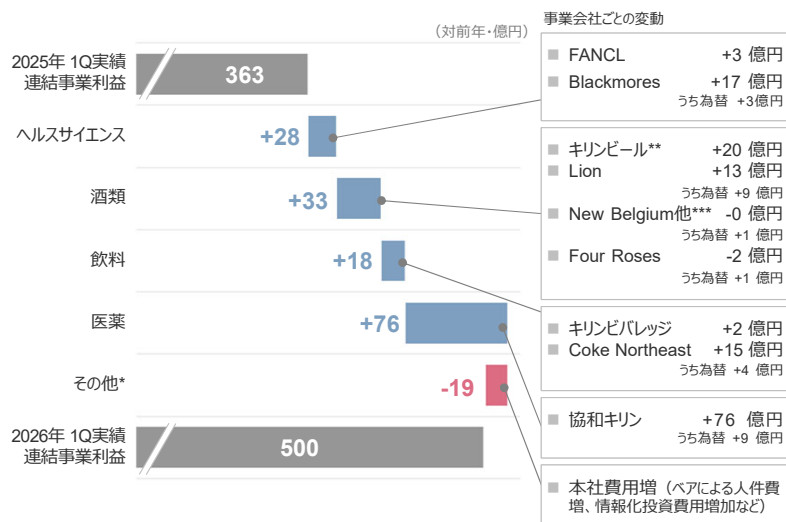
2026年4月1日に売却が完了したFour Rosesにかかる留保利益の税効果を認識したことなどの一時的な税率差異が主な要因

© Kirin Holdings Company, Limited

3

- 3ページは、事業利益以下の説明になります。
- EPS成長に向け、ボトムの利益までしっかり上げていく取り組みが奏功し、協和キリンにおける減損損失や法人所得税費用の増加などの減益要因があったものの、親会社所有者利益は順調に進捗しております。

2026年度 1Q実績：セグメント別 連結事業利益増減



* 「その他」は、「その他」と「全社費用/セグメント間取引消去」との合算値
 ** キリンビール単体の他、台湾麒麟等の連結構成会社を含む
 *** U.S.ワインを含む

© Kirin Holdings Company, Limited

**** 現状は臨床試験中止であるが、開発再開の可能性が極めて低いことから、本資料では「開発中止」と記載

トピックス

全般

▶ 各事業の順調な進捗に加えて、為替の後押しや協和キリンにおける売上総利益の増加により増益

ヘルスサイエンス事業

▶ 各事業・各エリアの着実な売上成長とコスト削減の継続により増益

酒類事業

▶ 国内外ともに、競合によるマーケティング投資強化の攻勢を受けながらも販売は順調に進捗

▶ 国内酒類では、競合サイバー攻撃によるプラス影響はほぼなくなったものの、狭義ビール・RTDの販売数量は計画を達成

医薬事業

▶ 3月にcrocatinlimab開発中止****を決定

- 4ページでは、セグメント別の事業利益増減とトピックを載せています。
- グループ全体では、協和キリンにおける技術収入の増加などで、医薬事業が増益に大きく貢献しております。
- ヘルスサイエンス、酒類、飲料についても、各事業が順調に進捗して増益で推移しております。
- なお、ヘルスサイエンス事業に関しては、中長期の利益目標実現に向けた戦略などをテーマとしたInvestor Dayを7月に開催いたします。ぜひご参加ください。
- 酒類事業については、国内外ともに、競争が一層激しくなっておりますが、その中でも順調な販売を継続することができています。
- 各事業の売上収益・事業利益についての詳細は、後ほど資料編をご確認ください。

- 第1四半期における通期業績予想の修正はない
- 事業利益以下の各利益について変動要因があるものの、予想は据え置き、**年初目標のEPS193円の達成を目指す**
- 中東情勢等、先行きが見通せない要素が多いため、コスト削減や効率化など費用コントロールを早期に実施し、リスクの低減を図る
- BS最適化に向けて、各事業内における構造改革の実行を数件進行させている

主な変動要因

益要因



- 協和キリンのrocatinlimab開発中止に伴う研究開発費の減少
- Four Rosesの売却益
- 各事業における構造改革に伴う売却益
- コスト削減や費用コントロール

損要因



- 協和キリンのrocatinlimabの開発中止に伴うクロージング費用等
- 中東情勢に伴う原燃料高騰影響
- Four Rosesの売却に伴う減少
- 各事業における構造改革に伴う売却損等

- 5 ページをご覧ください。
- 先ほども申し上げたとおり、現時点では通期の業績予想は修正いたしません。
- こちらに掲載のとおり、益要因として、医薬事業の研究開発費の減少、Four Rosesの売却益、その他進めております各事業内の構造改革に伴う益などがございます。
- 他方、損要因としても、医薬のRocatinlimabのクロージング費用、Four Roses売却に伴う事業利益の減少、各事業の構造改革に伴う売却損などのほか、先行きを見通すことが困難な中東情勢に伴う影響がございます。
- こうした状況下ではありますが、コスト削減や効率化など費用コントロールを早期に実施し、リスクの低減を図ることで、期初に設定したEPSの達成を目指してまいります。

- 初年度から気候変動以外の重要テーマも開示し、投資家に対する情報開示の透明性を向上
- 保証取得の義務化が見込まれる範囲を超えて、特に投資家の関心が高いと考えられる重点非財務指標などの保証も初年度から取得

	制度	当社グループにおける早期適用
開示	(時価総額1兆円以上3兆円未満であるため) 2028年12月期から義務化	3年前倒し 、2025年12月期から開示
	(初年度) 経過措置 気候変動以外の重要テーマに関する開示の 1年延期が可能	気候変動以外の重要テーマも 初年度から開示
	Scope3に関する開示の 1年延期が可能	Scope3も 初年度から開示 ただし、8月を予定している訂正報告書にて開示
保証	(2028年12月期から開示義務化であるため) 開示翌年の2029年12月期から義務化	4年前倒し 、2025年12月期から保証を取得
	当初2年間の保証取得範囲を限定 しガバナンス、リスク管理、指標と目標 (Scope1・2)	限定されている範囲を超えて 保証を取得* (重点非財務指標やこれまで任意保証を取得していた非財務指標の保証も取得)

*2年目以降は、すべての指標に対して保証を取得する予定

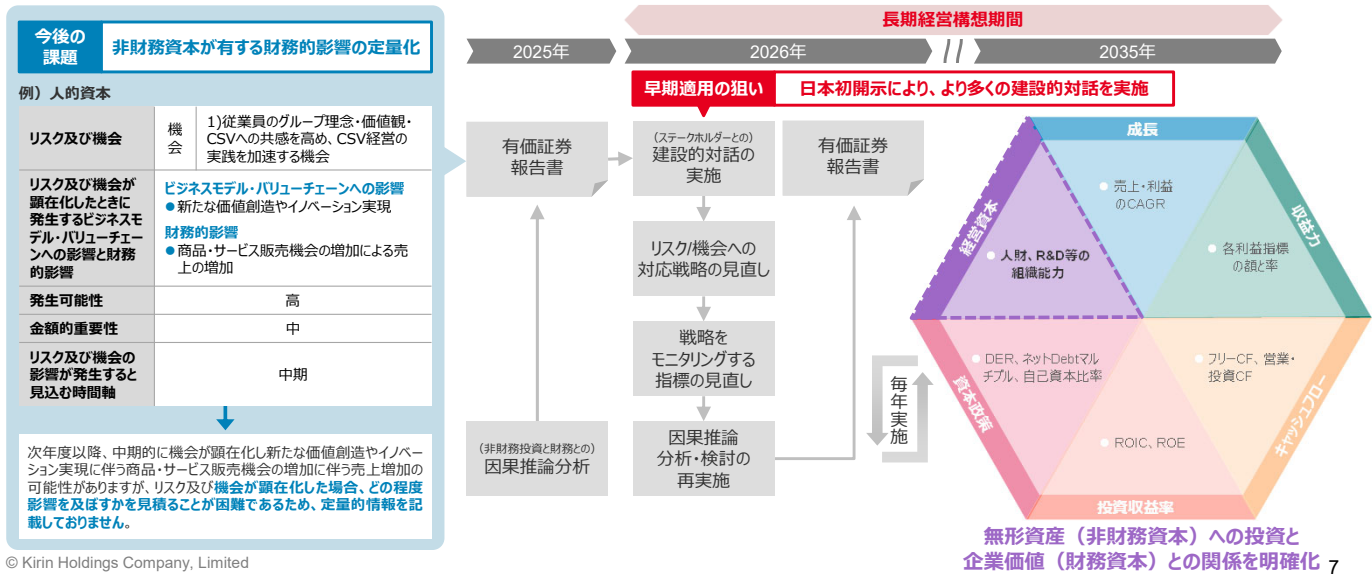
© Kirin Holdings Company, Limited

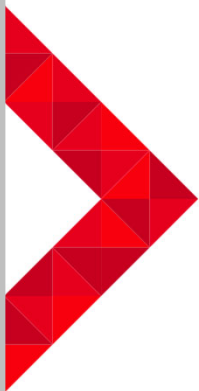
6

- 6ページと7ページでは、有価証券報告書における、SSBJ基準の早期適用について説明しています。
- 当社の場合、SSBJ基準に基づく開示は2028年12月期から、開示事項の保証取得に関しては、2029年12月期からそれぞれ義務化となるところ、開示については3年、保証取得については4年前倒しをして、2025年12月期の有価証券報告書からこれらを開始いたしました。
- サステナビリティの取り組みと、その開示について、引き続き、積極的に行ってまいります。
- 以上、第1四半期決算の進捗について、ご説明いたしました。

SSBJ基準の早期適用の狙い

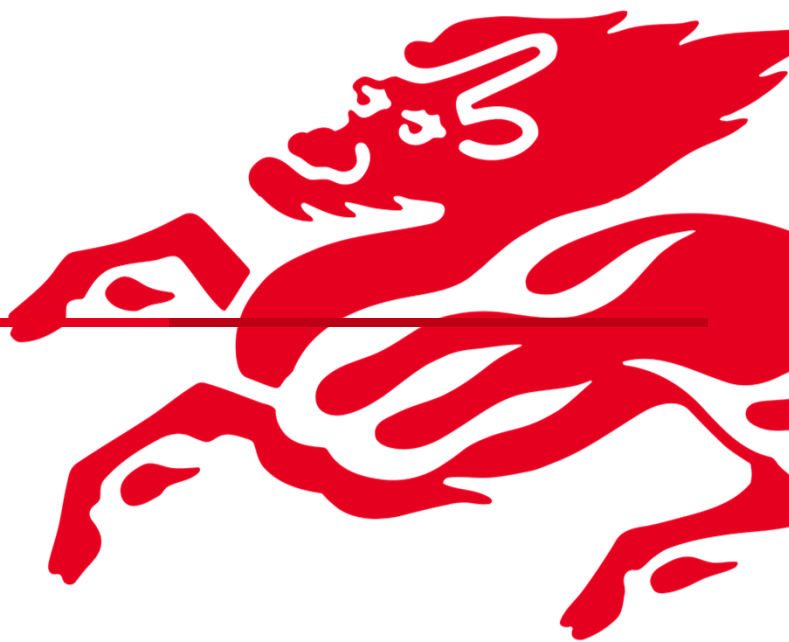
- 非財務資本を企業価値に顕在化させることを目的に、2025年から非財務と財務の因果推論分析に着手している
- 分析結果も踏まえ、SSBJ基準に準拠した開示を早期に実施したことで、より多くのフィードバックをいただき、今後の改善に反映していきたい





資料編

Joy brings us together



2026年度 1Q実績：セグメント別 売上収益



(億円)		2025年 1Q実績	2026年 1Q実績	増減	%
連結 売上収益		5,459	5,730	272	5.0%
酒類		2,490	2,481	-8	-0.3%
	キリンビール*	1,634	1,540	-95	-5.8%
	うちキリンビール単体	1,535	1,400	-134	-8.8%
	Lion	457	531	74	16.3%
	New Belgium他**	218	235	17	7.8%
	Four Roses	61	58	-3	-4.6%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	119	117	-2	-2.1%
飲料		1,272	1,363	91	7.2%
	キリンビバレッジ	573	567	-6	-1.0%
	Coke Northeast	676	773	97	14.4%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	23	23	-0	-1.3%
医薬		1,047	1,184	137	13.1%
	協和キリン	1,047	1,185	137	13.1%
	セグメント間取引消去	-1	-1	-0	-
ヘルスサイエンス		608	638	29	4.8%
	FANCL	270	304	33	12.4%
	Blackmores	153	190	37	24.2%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	185	144	-41	-22.2%
その他		42	65	22	52.3%

* キリンビール単体の他、台湾麒麟等の連結構成会社を含む
 ** U.S.ワインを含む

2026年度 1Q実績：セグメント別 事業利益



(億円)		2025年 1Q実績	2026年 1Q実績	増減	%
連結 事業利益		363	500	137	37.7%
酒類		270	303	33	12.3%
	キリンビール*	168	189	20	12.1%
	うちキリンビール単体	154	159	4	2.7%
	Lion	49	62	13	26.6%
	New Belgium他**	25	25	-0	-0.4%
	Four Roses	26	24	-2	-7.8%
	その他	2	4	2	124.2%
飲料		117	134	18	15.0%
	キリンビバレッジ	21	22	2	7.2%
	Coke Northeast	93	108	15	16.6%
	その他	3	4	1	20.7%
医薬		96	172	76	79.5%
	協和キリン	96	172	76	79.5%
ヘルスサイエンス		32	60	28	88.2%
	FANCL	27	30	3	12.3%
	Blackmores	9	25	17	190.0%
	その他	-4	5	8	-
その他		-1	-3	-2	-
全社費用・セグメント間取引消去		-149	-166	-17	-

* キリンビール単体の他、台湾麒麟等の連結構成会社を含む
 ** U.S.ワインを含む

FANCL

(億円)	25年 1Q実績	26年 1Q実績	増減	%
売上収益*	270	304	33	12.4%
化粧品(スキンケア)	153	167	14	9.0%
サプリメント	102	122	20	19.7%
事業利益** [事業利益率]	27 9.9%	30 9.9%	3	12.3%
地域別金額 対前年増減	26年 1Q実績			
国内	1.8%			
海外	93.3%			

* その他事業を含む
** PPAによる無形資産等の償却費を含む

売上
収益

化粧品(スキンケア)事業

▶ 主に海外での自社販売体制への移行に伴う収益の取り込みや、国内でのブランド強化施策の効果等により、増収。

サプリメント事業

▶ 特に海外において年代別サプリなどの主力商品の販売が堅調に推移し、国内外で増収。

事業
利益

▶ ブランド強化のための広告投資を行いつつも、全体での売上伸長が寄与し、増益。

Blackmores

豪ドルベース (million AUD)	25年 1Q実績	26年 1Q実績	増減	%
売上収益*	162	174	12	7.1%
豪州・NZ	72	73	1	1.6%
東南アジア・韓国	42	50	8	17.9%
中国	48	51	3	5.6%
事業利益** [事業利益率]	9 5.7%	23 13.3%	14	150.1%

* その他受託業務を含む
** PPAによる無形資産等の償却費を含む
通期予想レート：95.00円(豪ドル) / 26年1Q実績レート：109.41円(豪ドル)
25年1Q実績レート：94.36円(豪ドル)

売上
収益

▶ 各エリアで着実に成長し、全エリアで増収。

豪州・NZ

● 昨年8月に売却したペット向けヘルスケア事業の減収影響がありつつも、継続的な医療従事者向けの啓発活動の効果などにより、増収。

東南アジア・韓国

● 特にマレーシア・インドネシアでの新商品投入やチャネル拡大の効果により、エリア全体で増収。

中国

● Club Channel 等での取り組みや高付加価値商品の上市により、増収。

事業
利益

▶ 増収及び継続的なコスト削減の取り組みによる売上総利益の増加により、増益。

連結 (億円)	25年 1Q実績	26年 1Q実績	増減	%
売上収益	1,634	1,540	-95	-5.8%
事業利益	168	189	20	12.1%

▶ 連結での実績は、減収増益となった。海外事業は、中国での販売が好調に推移し、売上収益、事業利益ともに前年を上回った。

単体 (億円)	25年 1Q実績	26年 1Q実績	増減	%
売上収益	1,535	1,400	-134	-8.8%
ビール類計	—	—	—	-12.0%
RTD	—	—	—	-2.0%
ノンアルコール飲料	—	—	—	30.6%
酒税抜売上収益	934	886	-48	-5.1%
事業利益	154	159	4	2.7%
[事業利益率] *	16.5%	17.9%		

* 対酒税抜売上収益

利益増減 (億円)	154	25年1Q 事業利益
酒類等 限界利益減	-10	ビール類計 △67億 ビール類以外計△5億 価格改定・品種構成差異等 +62億
原材料費増	-5	アルミ缶高騰等
販売費減	19	マーケティング投下タイミング差等
その他費用減	0	
計	4	
	159	26年1Q 事業利益

© Kirin Holdings Company, Limited

(千KL)	25年 1Q実績	26年 1Q実績	%	市場 (カテゴリー)
一番搾りブランド計	87	74	-14.2%	-12%
一番搾り計	74	61	-18.3%	-12%
晴れ風	14	13	-12.0%	-12%
グッドエール	—	8	—	-12%
淡麗グリーンラベル	34	26	-23.3%	-24%**
本麒麟	44	30	-32.3%	-24%**
氷結ブランド計	72	68	-5.0%	-8%

** 発泡酒・新ジャンル（発泡酒②） 合算のエコノミー・カテゴリー 前年比を記載

売上
収益

▶ 昨年4月の価格改定前の仮需の反動により、減収。
▶ 「グッドエール」は計画を上回る進捗で、ビール類を牽引した。「氷結ブランド計」は、「氷結無糖」シリーズが食中酒としてのニーズを捉えて好調を維持し、市場を上回った。

事業
利益

▶ 前年同期の仮需の反動により販売数量は減少したものの、価格改定効果及びマーケティングを効率的に使用したことや、投下タイミングの影響もあり、増益。

Lion

豪ドルベース (million AUD)	25年 1Q実績	26年 1Q実績	増減	%
売上収益	484	486	1	0.3%
事業利益 [事業利益率]	52 10.7%	57 11.7%	5	9.2%

通期予想レート：95.00円(豪ドル) / 26年1Q実績：109.41円(豪ドル)
25年1Q実績：94.36円(豪ドル)

豪州・NZ事業利益増減 (million AUD)

25年1Q 事業利益	52
豪州・NZ 数量	5
豪州・NZ その他	0
26年1Q 事業利益	57

販売数量前年比
豪州のみ +3.1%

売上収益

- ▶ 売上収益は、中東情勢悪化を背景としたエネルギー・物流コスト上昇を見越し、出荷の前倒しが発生したことを主因として、販売数量が増加し、増収。
- ▶ 「Hahn」及び「Stone&Wood」の販売が前年を上回り好調に推移し、全体でも市場を上回った。RTDの「Hyoketsu」の販売も順調に進捗している。

事業利益

- ▶ 事業利益は、COGSの上昇及びマーケティング費用の増加があったものの、販売数量増加による製造固定費の吸収効果や本社固定費の効率化によりこれらを相殺し、結果として増益。

New Belgium他*

米ドルベース (million USD)	25年 1Q実績	26年 1Q実績	増減	%
売上収益	145	150	6	3.9%
事業利益 [事業利益率]	16 11.3%	16 10.5%	-1	-3.7%

通期予想レート：150.00円(米ドル) / 26年1Q実績：156.45円(米ドル)
25年1Q実績：151.21円(米ドル)

売上収益

- ▶ 新商品の好調な販売や基幹ブランドの堅調な推移により「Voodoo Ranger」が販売を牽引し、「Ichiban」の取扱拡大も寄与したことで、販売数量は市場を上回った。
- ▶ 売上収益は、24年3Qにハリケーンにより被災をしたAsheville工場の稼働停止影響が前年2月までみられたことから、その反動増も寄与し、増収。

事業利益

- ▶ 販売数量増加により粗利は前年を上回ったが、本社固定費等で一過性の費用増があり、事業利益はやや減益。

麒麟ビバレッジ

(億円)	25年 1Q実績	26年 1Q実績	増減	%
売上収益	573	567	-6	-1.0%
ヘルスサイエンス飲料	94	92	-3	-2.8%
事業利益	21	22	2	7.2%
[事業利益率]	3.6%	3.9%		

売上
収益

▶ 昨年の価格改定に伴う数量減や容器戦略の見直しによる大型容器の数量減を、昨年10月に実施した価格改定による単価上昇と「おいしい免疫ケア」「午後の紅茶」の拡売によって相殺し、売上収益は概ね前年並みとなった。

事業
利益

▶ 昨年の価格改定と容器ミックス良化によりやや増益。

トピック

▶ 「おいしい免疫ケア」の安定供給のため、滋賀工場での超小型PETの新ライン導入(2028年7月稼働)など、生産体制安定・効率化に向けた取り組みに着手。

Coke Northeast

USドルベース (million \$)	25年 1Q実績	26年 1Q実績	増減	%
売上収益	447	494	47	10.6%
事業利益	61	69	8	12.7%
[事業利益率]	13.7%	14.0%		

通期予想レート：150.00円（米ドル） / 26年1Q実績：156.45円(米ドル)
 25年1Q実績：151.21円(米ドル)

売上
収益

▶ 継続的な店頭活動強化による数量増と、年初からの価格マネジメントが寄与し、増収。

事業
利益

▶ 売上収益の増加に加え、販管費の抑制のための取り組みが奏功し、増益。

(億円)	25年1Q実績	26年1Q実績	増減	%
売上収益	1,047	1,185	137	13.1%
事業利益	96	172		
[事業利益率]	9.1%	14.5%	76	79.5%

(億円)	Crysvita クリスピータ		Poteligeo ポテリジオ	
	25年1Q実績	26年1Q実績	25年1Q実績	26年1Q実績
日本	28	34	3	4
北米	241	235	69	89
EMEA	148	179	26	28
その他	8	9	-	-
合計	424	457	98	121

売上
収益

➤ Crysvitaの安定的な販売とFasenraの成長に加え、Amgenとの共同開発終了に伴い、繰延収益認識を行っていたロカチンリマブのアップフロントを一括で売上計上したことによる技術収入の増加により、増収。

事業
利益

➤ 売上収益の増加に伴う売上総利益の増加に加え、前年にrocatinlimab開発がピークを迎えていたことによる反動で研究開発費が前年から減少したことから、増益。



協和キリン 業績修正内容

協和キリン
Q1決算説明会資料



(億円)	25年実績	26年通期 (従来予想)	26年予想 (修正あり)	修正額
売上収益	4,968	5,200	5,200	—
売上総利益	3,689	3,910	3,880	-30
販売費及び一般管理費	1,579	1,690	1,630	+60
研究開発費	1,012	1,220	950	+270
コア営業利益*	1,098	1,000	1,300	+300
当期利益	670	750	750	—

* 協和キリン コア営業利益

- 協和キリンの決算では、コア営業利益をrocatinlimabの開発中止に伴う販管費・研究開発費の減少により、年初から上方修正。
- 一方、当期利益については、同開発中止に伴うクロージング費用の見積もりに加え、減損損失の影響によりその他営業費用が増加しコア営業利益の上方修正分を相殺するため、年初計画を据え置いた。
- 尚、キリンホールディングスにおいては、本資料P.5の通り、第一四半期における通期業績予想の修正はない。

	開発中の疾患 ^{*1}	承認予定年 ^{*2}	開発ステータス	市場規模 ^{*3}	患者さんの数 ^{*4}
ziftomenib	急性骨髄性白血病 (NPM1-m or KMT2A-r, 新規診断)	TBD	P3 (グローバル)	★★★★	20K
KK8398 infigratinib	軟骨無形成症	TBD	P3 (日本)	★	生児出生の 2万人に1人
	軟骨低形成症	TBD	P3 (日本) 準備中	★	生児出生の 3.3万人に1人
OTL-200	異染性白質ジストロフィー	TBD	P3 (日本) 承認申請 (日本)	★	生児出生の 10万人に1人 ^{*6}
KHK4951 tivozanib 点眼	滲出型加齢黄斑変性	TBD	P2 (日・米)	★★★★★	2672K
	糖尿病黄斑浮腫	TBD	P2 (日・米)	★★★★	2219K
OTL-203	ムコ多糖症I型 (Hurler症候群)	2029/2030	ピボタル試験 ^{*5} (米・欧)	★	生児出生の 10万人に1人 ^{*6}
OTL-201	ムコ多糖症IIIA型 (Sanfilippo症候群A型)	TBD	POC試験 ^{*7}	★	生児出生の 10万人に1人以下

^{*1} 本資料の発表時点で開発中の疾患であり、最終的に規制当局から承認される適応症とは異なる可能性があります。^{*2} 最初に承認が期待される年です。^{*3} 「開発中の疾患」に対する全製品の総和を基に協和キリンが独自に推計した市場規模です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。★: 500億円未満、★★: 500億円以上-1000億円未満、★★★: 1000億円以上-5000億円未満、★★★★: 5000億円以上-1兆円未満、★★★★★: 1兆円以上 ^{*4} 協和キリン独自の推計値です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。^{*5} P3試験相当。^{*6} 「10万人に1人」はMPS-I全体の値であり、Hurler症候群はこのうちの60%になります。^{*7} P1/2試験相当。

財政状態計算書 キャッシュ・フロー計算書



(億円)	2025年4Q実績	2026年1Q実績	増減
資産合計	34,940	34,080	-860
資本合計	15,951	16,258	307
負債合計	18,989	17,822	-1,167
ROIC*	7.6	—	—
グロスDEレシオ	0.72	0.71	—
ネットDebt／EBITDA**	2.68	—	—
PBR(株価純資産倍率) ***	1.5	1.5	—

ROIC・ネットDebt／EBITDAは4Qのみ開示

(億円)	2025年1Q実績	2026年1Q実績	増減
営業活動CF	102	742	640
投資活動CF	-454	-256	198
フリーCF	-352	486	838
財務活動CF	582	-585	-1,167

* 利払前税引後利益／(有利子負債の期首期末平均＋資本合計の期首期末平均) にて算出

** EBITDA＝事業利益＋減価償却費及び償却費(注)にて算出
(注) 減価償却費及び償却費は使用権資産の償却費を除く。

*** 期末株価終値／(親会社の所有者に帰属する持分／期末発行済株式数(自己株式除く)) にて算出

© Kirin Holdings Company, Limited



財政状態計算書

▶ **資産合計**：前年度末が休日であったこと等による営業債権及びその他の債権の減少等により、前年度末に比べ860億円減少して3兆4,080億円となった。

▶ **資本合計**：為替変動の影響等によるその他の資本の構成要素の増加等により、前年度末に比べ307億円増加して1兆6,258億円となった。

▶ **負債合計**：前年度末が休日であったこと等による営業債務及びその他の債務、未払酒税の減少等により、前年度末に比べ1,167億円減少して1兆7,822億円となった。

▶ **グロスDEレシオ**：有利子負債は1.5%増加したものの、親会社の所有者に帰属する持分がそれを上回る2.4%の増加となったため、前年度末より低下した。

▶ **PBR**：期末株価終値が7.5%上昇し、親会社の所有者に帰属する持分も2.8%増加したことから、前年度末並みとなった。

キャッシュ・フロー計算書

▶ **営業活動CF**：前年同期に比べ640億円増加して742億円の収入となった。税引前利益は前年同期に比べ121億円増加の503億円となり、また、減価償却費及び償却費として273億円を計上した。なお、前年同期に比べ運転資金の流入は652億円増加、法人所得税の支払額は79億円増加した。

▶ **投資活動CF**：前年同期に比べ198億円減少して256億円の支出となった。有形固定資産及び無形資産の取得については前年同期に比べ60億円減少して309億円の支出となった。一方、子会社株式の売却により54億円の収入があった。

▶ **財務活動CF**：585億円の支出（前年同期は582億円の収入）となった。コマーシャル・ペーパーの増加により390億円の収入があった。一方、配当金の支払により375億円、長期借入金の返済により250億円、自己株式の取得により84億円の支出があった。

➤ キリンホールディングス
IR情報



<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/>

➤ キリンホールディングス
Investor's Guide,
Fact Book, 動画



<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/library/guide/>

* 「Investor's Guide」は、投資家様向けにキリングループの経営計画、事業概要や各事業の保有意義などをまとめた資料です。

© Kirin Holdings Company, Limited

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together